

# 若い世代に選ばれるMITOづくり総合戦略

- デジタル×まち・ひと・しごと創生（第3次） -





## はじめに



人口減少・超高齢社会が進行する中、活力ある日本社会の維持、地方からの日本の創生を目指し、全国各地において、地方創生に向けた様々な取組が進められております。

本市におきましても、2015（平成 27）年度に第1次となる「水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、水戸ならではの個性と魅力を高め、にぎわいと交流を創出しながら、地方創生に資する各種事業を積極的かつ集中的に推進してまいりました。

今回の新たな総合戦略につきましては、将来的な人口減少が避けられない中、若い世代の人口流入の促進及び人口流出の抑制を図ることで、バランスのとれた人口構造とし、将来にわたってまちの活力を高めていくことを目的として策定したものであります。

本戦略においては、これまで進めてきた「まち・ひと・しごと創生」を主軸に、創業・スタートアップ支援や企業誘致などによる多様な働く場の確保と、本市の魅力を若い世代に戦略的に届けるシティプロモーションを重点に位置付けました。また、デジタル技術の活用により、各施策を更に効果的に推進するなど、DX、GXといった新たな時代の課題にも積極的に対応していくこととしたところであります。

若い世代に選ばれる魅力あるまちの構築に向け、これらの実効性の高い施策を積極的かつ集中的に推進することにより、誰もが希望する働き方や暮らし方を実現でき、安心して子どもを生み育てることもできる、若い世代が移住・定住したくなるまちを目指してまいります。

市民の皆様をはじめ、関係機関・団体の皆様におかれましては、各事業の推進に当たりまして、なお一層の御支援・御協力をよろしくお願い申し上げます。

結びに、本戦略の策定に際しまして、議会はもとより、水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議の委員の皆様にご慎重な御審議をいただくとともに、市民の皆様から貴重な御意見等をいただきましたことに、心から感謝申し上げます。

水戸市長 高橋 靖





## 策定の背景

全国的に人口減少社会の到来、東京への一極集中などが課題となる中、国においては、2014（平成26）年度に制定した「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、2015（平成27）年度を初年度とする「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「国総合戦略」という。）を策定し、それぞれの地域で住みやすい環境を確保し、将来にわたって活力ある日本社会の維持に取り組んできました。

本市においても、2015（平成27）年度に「水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略」、2020（令和2）年度に「水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略（第2次）」を策定し、持続可能なまちをつくるための人口減少対策として、実効性のある様々な施策を積極的かつ集中的に推進してきました。

そのような中、近年のテレワークの普及や地方移住への関心の高まりをはじめとする社会情勢の大きな変化等を踏まえ、国においては、国総合戦略の抜本的な見直しを行い、2023（令和5）年度を初年度とする「デジタル田園都市国家構想総合戦略」（以下「デジ田総合戦略」という。）を策定し、デジタルの力を活用して、地方創生の更なる深化に取り組むこととしました。

こうした状況を踏まえ、本市においても、新しい時代に対応し、若い世代に選ばれる魅力あるまちの実現に向けた取組を一層推進していくため、デジ田総合戦略や2023（令和5）年度に策定した「水戸市第7次総合計画ーみと魅・Next プランー」、その他関連計画等との整合を図りながら、新たな総合戦略を策定し、地方創生の更なる加速化を図るものです。





# — 目 次 —

|                                     |    |
|-------------------------------------|----|
| 第1 戦略の基本事項                          | 1  |
| 第2 戦略の方向                            | 3  |
| 第3 若い世代の移住・定住を加速させる取組の重点化           | 5  |
| 第4 施策の展開                            | 8  |
| 施策の柱Ⅰ しごとの創生                        | 8  |
| 具体的施策1 若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出         | 9  |
| 具体的施策2 地域経済をけん引する各種産業の振興            | 10 |
| 具体的施策3 水戸のまちを楽しむ人を増やすことによるにぎわいの創出   | 11 |
| 具体的施策4 誰もが訪れたくなる魅力ある交流拠点の形成         | 12 |
| 施策の柱Ⅱ ひとの創生                         | 13 |
| 具体的施策1 安心してこどもを生み育てることのできる環境の充実     | 14 |
| 具体的施策2 未来を生きる力を育む魅力ある教育の推進          | 15 |
| 具体的施策3 こども・若者が活躍できる機会の創出            | 16 |
| 施策の柱Ⅲ まちの創生                         | 17 |
| 具体的施策1 生き生きと健やかに暮らせる環境づくり           | 18 |
| 具体的施策2 安全に暮らせる環境づくり                 | 19 |
| 具体的施策3 居心地がよく快適に暮らせる環境づくり           | 20 |
| 施策の柱Ⅳ シティプロモーション                    | 21 |
| 具体的施策1 若い世代に水戸の魅力を伝えるシティプロモーション     | 22 |
| 第5 各施策をより効果的に推進するためのデジタル化・DX        | 23 |
| 第6 推進体制と進捗管理                        | 25 |
| 付属資料                                | 27 |
| 1 SDGs（持続可能な開発目標）                   | 27 |
| 2 市総合計画及び国関連法令・計画等から見る本戦略の位置付けと役割   | 28 |
| 3 「若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出」の重点化に係る参考資料 | 30 |
| 4 数値目標・重要業績評価指標（KPI）一覧              | 34 |
| 5 総合戦略策定に係る経過と推進体制                  | 37 |
| 6 用語解説                              | 41 |

# 第1 戦略の基本事項



## 1 策定の趣旨

本戦略は、将来的な人口減少が避けられない中、近年のテレワークの普及や地方移住への関心の高まりをはじめとする社会情勢の大きな変化等を踏まえながら、若い世代の人口流入の促進及び人口流出の抑制を図ることで、バランスのとれた人口構造とし、将来にわたってまちの活力を高めていくため、策定するものです。本戦略に基づき、若い世代に選ばれる魅力あるまちの構築に向け、実効性の高い施策を積極的かつ集中的に推進します。

## 2 期間

本戦略は、2028（令和10）年度を目標年度とし、期間は、2024（令和6）年度から2028（令和10）年度までの5年間とします。

## 3 基本的な考え方

本戦略は、「水戸市第7次総合計画ーみと魁・Next プランー」に掲げた将来都市像「こども育む 暮らし楽しむ みらいに躍動する 魁のまち・水戸」の実現を目指していくことを基本とします。さらに、これまでの「水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（2015（平成27）年度に第1次を策定）における取組の成果及び国のまち・ひと・しごと創生総合戦略である「デジタル田園都市国家構想総合戦略」における施策の方向を踏まえ、「まち・ひと・しごとの好循環」、「若い世代に選ばれるしごとの創生及びシティプロモーションの重点化」、「デジタル化・DXによる各施策の推進」の三つの視点を基軸とした戦略とします。

また、本戦略は、SDGsの理念を踏まえながら、DX、GXなど、新たな時代の課題にも積極的に対応した「持続可能なまちづくり」を推進することとしています。

### 【参 考】

「デジタル田園都市国家構想総合戦略」（2022（令和4）年12月23日閣議決定）



## 基軸とする三つの視点

### (1) まち・ひと・しごとの好循環

#### ア しごとの創生

雇用の創出や各種産業の振興を図るため、創業・スタートアップ支援、企業誘致等により事業所数の増加を促すとともに、地域経済の中核を担う地元企業等の経営基盤強化や生産性向上に向けた支援を行うほか、様々なライフスタイルにあわせた働きやすい環境づくりに取り組みます。あわせて、魅力ある地域資源を活用しながら、戦略的な観光振興をはじめとしたにぎわいの創出にも取り組み、地域経済のより一層の活性化を図ります。

#### イ ひとの創生

こどもを生みたいと望む人が、安心してこどもを生み育てることができる環境づくりに取り組み、まち全体で子育てを応援する機運を醸成します。あわせて、一人一人の個性を伸ばす教育や郷土を愛する心を育てる教育、多様な体験機会の提供等を通して、こども・若者の健やかな成長を確かなものとし、未来を創る力を育みます。

#### ウ まちの創生

誰もが生涯を通して生き生きと健やかに暮らすことができる環境づくりに取り組むほか、あらゆる事態に備えた危機管理体制の強化を図ります。あわせて、時代の変化に対応した都市構造や交通ネットワークの構築、ゼロカーボン・エコシティの実現等により、快適なまちづくりを進め、誰もが安心して暮らすことができるまちを目指します。

これら三つの取組を深化、加速化することにより、「しごとの創生」、「ひとの創生」、「まちの創生」が相互に効果を高めあう「まち・ひと・しごとの好循環」を生み出していきます。

### (2) 若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出及びシティプロモーションの重点化

市民1万人アンケートや国が実施した地方移住者の意識調査の結果（※）等によると、若い世代が移住・定住先となる地域を選択するに当たっては、仕事や子育て環境、生活の利便性、娯楽、人とのつながりなど、様々な要因が影響していることが分かります。その中でも、本市において、若い世代の人口流入の促進及び人口流出の抑制を図るためには、特に働く場の確保と雇用環境の充実が大きな課題となっています。

これらを踏まえ、本戦略においては、「しごとの創生」のうち、魅力ある多様な働く場があり、様々なライフスタイルで暮らすことができるまちの実現に優先的に取り組むとともに、「まち・ひと・しごとの好循環」により高める水戸の魅力を効果的に発信し、若い世代に住みたい、ずっと住み続けたいと思われるシティプロモーションを図ることに重点を置き、若い世代の移住・定住を加速させていきます。

### (3) デジタル化・DXによる各施策の推進

デジタル技術は、地域社会の生産性や利便性を飛躍的に向上させ、地域の魅力を高める力を持っていることから、あらゆる分野で積極的に活用し、本戦略における各施策をより効果的に推進していくことにより、「まち・ひと・しごとの好循環」の実現を支えます。

※ P30 付属資料「若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出」の重点化に係る参考資料」参照



## 第2 戦略の方向



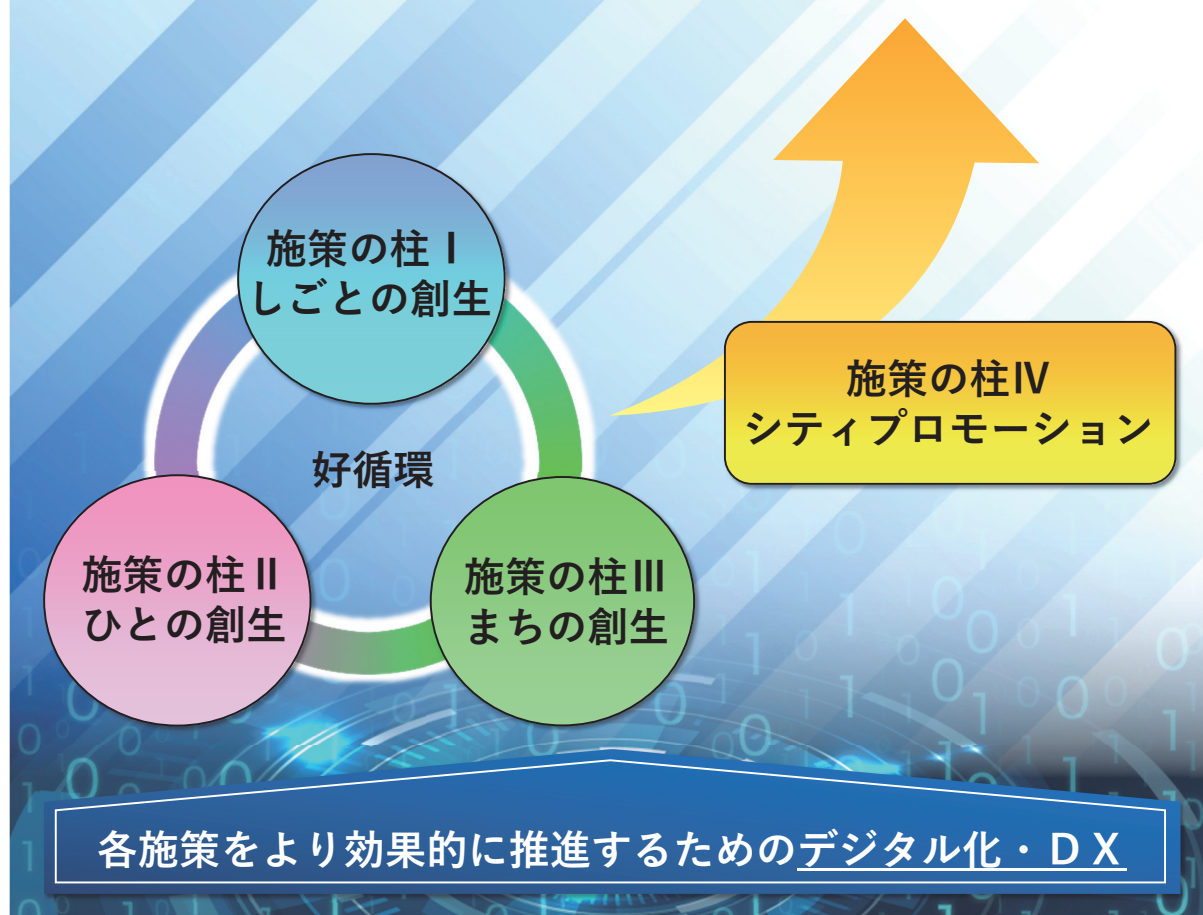
### 1 目指す姿

一人一人が望むライフスタイルを叶えられる  
若い世代が移住・定住したくなるMITOの実現

本戦略においては、若い世代に選ばれる魅力あるまちの構築に向け、実効性の高い施策を積極的かつ集中的に推進することにより、誰もが希望する働き方や暮らしを実現でき、安心して子どもを生み育てることもできる、若い世代が移住・定住したくなるまちを目指します。

### 2 総合戦略全体のイメージ

一人一人が望むライフスタイルを叶えられる  
若い世代が移住・定住したくなるMITOの実現



#### 施策の柱

#### 具体的施策

##### I しごとの創生

持続的な経済発展による  
豊かで楽しめる  
MITOの実現

- ① 若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出
- ② 地域経済をけん引する各種産業の振興
- ③ 水戸のまちを楽しむ人を増やすことによるにぎわいの創出
- ④ 誰もが訪れたくなる魅力ある交流拠点の形成

##### II ひとの創生

未来を創る力あふれる  
MITOの実現

- ① 安心してこどもを生み育てることのできる環境の充実
- ② 未来を生きる力を育む魅力ある教育の推進
- ③ こども・若者が活躍できる機会の創出

##### III まちの創生

誰もが安心して  
暮らすことのできる  
MITOの実現

- ① 生き生きと健やかに暮らせる環境づくり
- ② 安全に暮らせる環境づくり
- ③ 居心地がよく快適に暮らせる環境づくり

##### IV シティ プロモーション

住みたい、  
ずっと住み続けたいと  
思われるMITOの実現

- ① 若い世代に水戸の魅力を伝えるシティプロモーション



### 第3 若い世代の移住・定住を加速させる 取組の重点化



本市は都市づくりの基本理念として、将来にわたって発展し、暮らしたいと思える都市としていくため、水戸の未来を創っていく全てのこどもたちをまち全体で育み、若い世代に選ばれる魅力あるまちとしていくことに最重点で取り組むこととしています。その実現に向けては、若い世代の本市への移住・定住を加速させていくことも大変重要です。

2020（令和2）年度に国が行った地方移住者の意識調査では、「地方移住を意識したきっかけ」として、就職活動や転職、転勤が上位に挙げられているほか、「地方移住の決断に影響を与えた要素」として、「希望する職種・業種の仕事が見つかったこと」及び「納得できる給与水準の仕事が見つかったこと」が上位に挙げられており、地方移住においては、仕事の影響が大きいことが分かります。

また、2022（令和4）年度に本市が行った市民1万人アンケートでは、「水戸市の印象」として、「魅力ある企業が多い」及び「商業が盛んで活力を感じる」が下位となっているほか、「施策の現状に対する満足度」として、「商業の振興（新たな店舗の開業など）」や「雇用対策の充実（就業機会の創出など）」、「工業の振興（新たな企業の進出など）」の評価が低く、水戸市からの転出に影響を与えているものと考えられます。

さらに、2022（令和4）年度に本市と茨城大学、常磐大学が行った「若者によるエビデンスに基づく政策提言発表会」では、若者の茨城県央地域における転出理由及び転入理由において、「仕事」が大きな要因であることが示されたほか、大規模な企業や情報通信業の企業が多い地域は若者の転入率が高いとし、企業誘致や企業支援に関する提言もなされました。

#### 【地方移住者（UJIターン者）の意識調査】

Q17 あなたが東京圏から地方に移り住むことを最初に意識したきっかけ 上位の項目（20項目中）

就職活動（新卒）…UJIターン：11.0%（4位）、Iターン：14.9%（2位）

転職・求職活動（新卒以外）…UJIターン：9.0%（5位）、Iターン：5.5%（8位）

自身の転勤…UJIターン：13.0%（2位）、Iターン：14.9%（2位）

Q23 あなたが地方に住むという決断をした際に、影響を与えた要素 上位の項目（14項目中）

希望する職種・業種の仕事が見つかった…UJIターン：31.2%（1位）、Iターン：25.3%（2位）

納得できる給与水準の仕事が見つかった…UJIターン：17.3%（3位）、Iターン：9.7%（6位）

#### 【あなたと描く水戸の未来－市民1万人アンケート－】

1－1 水戸市の印象 評価が下位の項目（27項目中）

商業が盛んで活力を感じる…20歳代：2位、30歳代：2位、40歳代：2位

魅力ある企業が多い…20歳代：3位、30歳代：4位、40歳代：4位

2－3－1 施策の現状に対する満足度 評価が下位の項目（38項目中）

雇用対策の充実（就業機会の創出など）…20歳代：2位、30歳代：3位、40歳代：2位

商業の振興（新たな店舗の開業など）…20歳代：3位、30歳代：1位、40歳代：1位

工業の振興（新たな企業の進出など）…20歳代：4位、40歳代：5位

※詳細はP30 付属資料「若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出」の重点化に係る参考資料」参照



これらの結果を踏まえ、本戦略では、「しごとの創生」のうち、「若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出」に優先的に取り組みながら、「まち・ひと・しごとの好循環」を生み出すことで、水戸ならではの産業の振興や文化の醸成を図り、水戸の魅力を高めていきます。あわせて、その魅力を若い世代に伝える効果的なシティプロモーションを展開し、ブランド力を高めていくことで、若い世代の本市への移住に向けた意識の向上を図るとともに、市民のシビックプライドを育みます。これらに取り組むことで、若い世代の本市への移住・定住を加速させていきます。

## 1 若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出

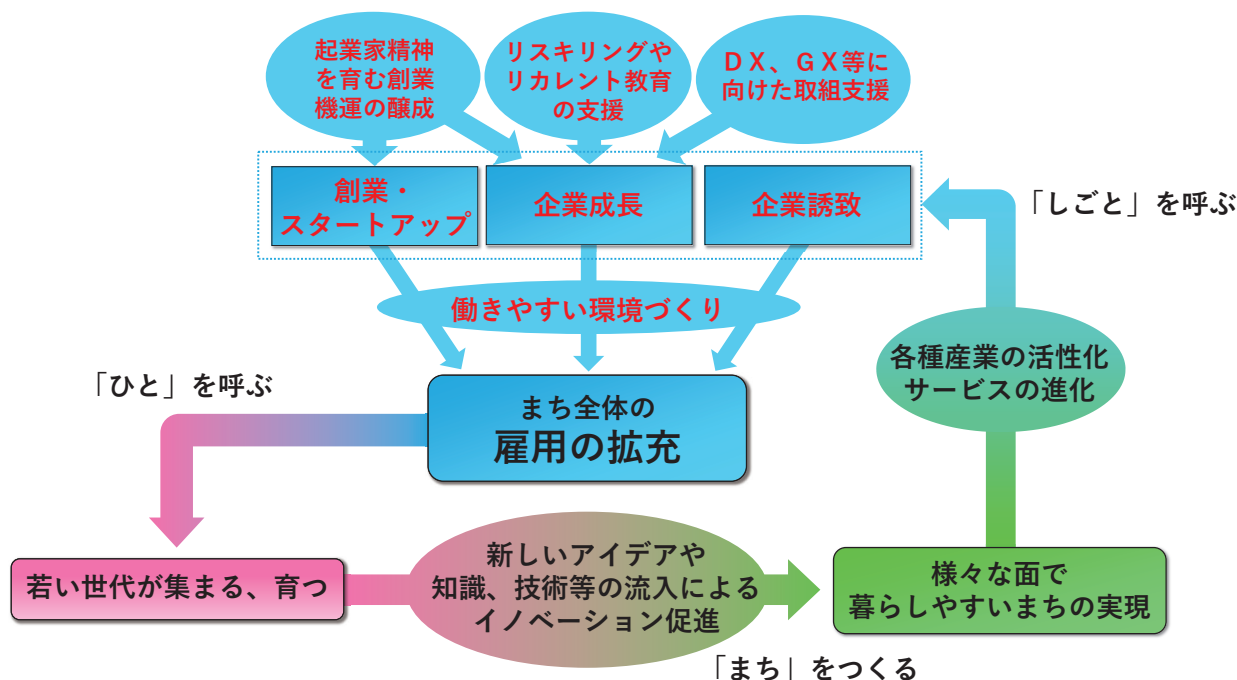
若い世代の移住・定住には、「若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出」が求められています。

そのため、本市では、創業・スタートアップの促進や市内企業の成長支援、企業誘致に積極的に取り組むとともに、様々なライフスタイルに応じて働くことのできる環境づくりを進め、まち全体の雇用の拡充に優先的かつ重点的に取り組みます。

そのことによって、新しいアイデアや知識、技術等を持った若い世代が集まり、地域のイノベーションが促進され、各種産業の活性化やサービスの進化が起きることで、新たな働く場の創出につながっていく「若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出」の視点から見た「まち・ひと・しごとの好循環」を生み出していきます。

また、まち全体の雇用の拡充に向けた新たな取組として、本市では、関係機関等と連携しながら、若い世代の起業家精神を育む創業機運の醸成に取り組むほか、市内企業の成長を促進するため、DX、GX等に向けた取組の支援にも力を注いでいきます。さらには、リスクリングやリカレント教育といった企業の成長につながる知識の習得を支援するなど、若い世代の力となり、更なる活躍を後押しするための取組を推進していきます。

【「若い世代が魅力を感じる多様な働く場の創出」の視点から見た「まち・ひと・しごとの好循環」のイメージ】



## 2 若い世代に水戸の魅力を伝えるシティプロモーション

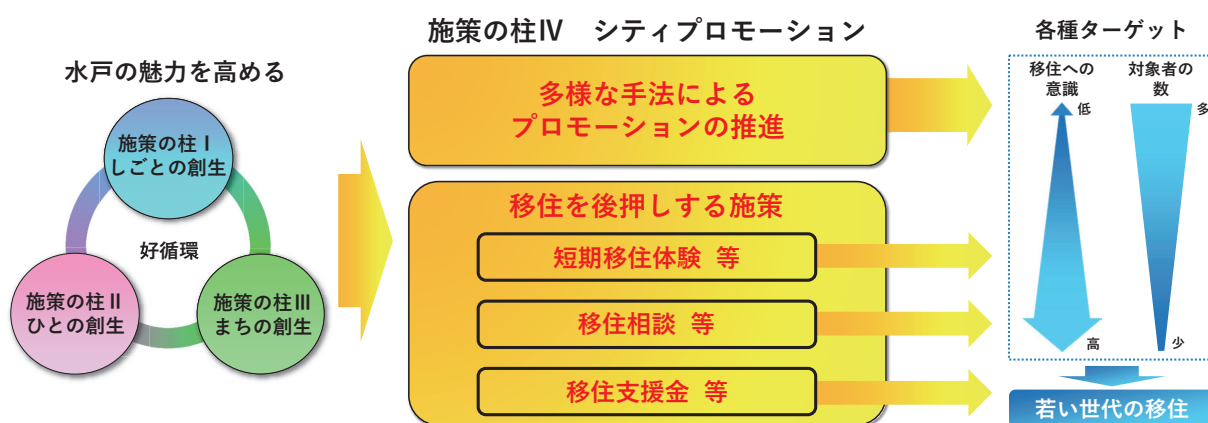
若い世代の移住・定住の促進に向けては、働く場の情報をはじめ、本市の多様な魅力をより多くの若者に伝え、本市に住みたい、ずっと住みたいと感じてもらう必要があります。

そのため、水戸の魅力を幅広く高めることはもちろん、居住地を変えるきっかけとなる進学や就職、結婚等のライフイベントのタイミングにあわせ、一人一人が望むライフスタイルに応じた本市の魅力を伝える戦略的なシティプロモーションに取り組むことが重要です。

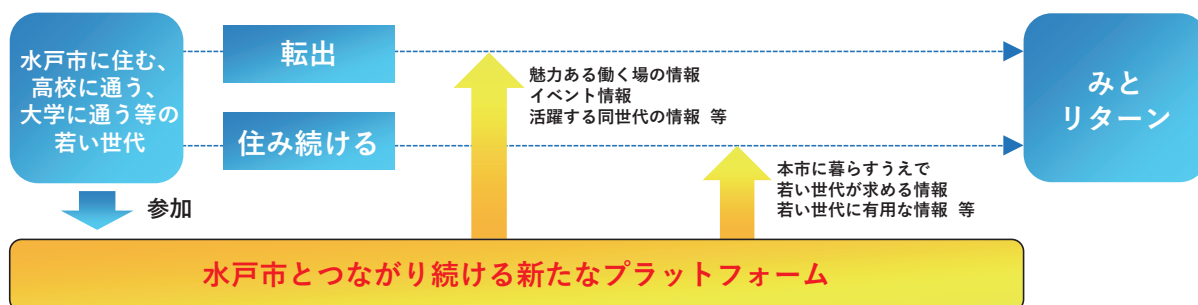
このことを踏まえ、本市では、多様な手法によるプロモーションの推進とともに、移住への意識が高まった方に対する移住を後押しする施策の推進のほか、魅力ある働く場のPR等に重点的に取り組みます。

また、そのうちの新たな取組として、高校や大学が多く立地する本市の特色を生かし、若い世代と本市がつながり続けるプラットフォームを構築し、市内への通学等により、本市と関わりがある若い世代の参加を促進していきます。このプラットフォームの活用により、本市に住み続けることや、進学や就職等で本市から離れたとしても、本市への関心を維持し、将来的に戻ってくることを選択する「みとりターン」の促進に積極的に取り組んでいきます。

### 【若い世代の移住に向けた戦略的なシティプロモーションのイメージ】



### 【若い世代が水戸市とつながり続ける新たなプラットフォームのイメージ】



※「みとりターン」・・・市内教育機関に通うなど、本市に関わったことのある若い世代が水戸に戻ってくることを、又は定住すること。